

干潟の生きもの追跡

1. ねらい

- ・干潟の生きものが干潟の表面に残した巣穴等の痕跡から、生きものの存在に気づいてもらう。
- ・痕跡を残した生きものの正体を調べる活動から、生きものに興味をもってもらおう。
- ・生きものがどのようにして痕跡を残したのか、生態観察への興味づけを行う。

参考 生きものを採集して、仲間分けを行う『干潟の生きもの観察①②』と組み合わせると、一連の体験となり効果が高い。特に、初めて干潟の観察をするときや、本格的な観察に入る前に行うと、痕跡から生きものの存在に気づいてもらうことができる。

2. 概要

- | | |
|----------|---|
| ○所要時間 | 30分 |
| ○時期 | 通年 干潮時 |
| ○場所 | 砂地の干潟、泥地の干潟(泥が深いところは避ける)、ヨシ原付近 |
| ○対象 | 小学校低学年以上 |
| ○人数 | 基本的に問わないが、活動できる範囲の広さを考慮する。 |
| ○資材 | 虫眼鏡、定規、筆記用具、記録用紙、カメラ |
| ○事前・事後学習 | 痕跡を残したと思われる生きものについて調べる。 |
| ○応用 | 痕跡の特徴を記録する。どのようにして痕跡がつけられたのか生きものの動きを観察する。 |
| ○安全管理 | 夏は帽子をかぶり、日焼け対策をし、飲み物を用意する。また冬はウィンドブレーカーを着る。移動時は、ばらばらにならずに一緒に行動する。干潟では泥が深い危険な箇所もあるので活動範囲と注意点をしっかり伝える。潮汐の時間を把握しておく。 |

ひ が た い つ い せ き 9

干潟の生きもの追跡

ぱつと見ると、何もいないような干潟。だけど、よく見ると、たくさんの生きものがかくれているよ。



干潟に残された足あとや巣穴を見つけよう。

カニや二枚貝の巣穴

砂や泥がもじあがっている



小さな砂ダンゴ

二枚貝の巣穴

ゴカイの巣穴やフン

小さな穴

によるよじらした泥



カニや貝の足あと

なにかがはつたあと



針でつづいたようなあと

鳥の足あと

三本ゆびの足あと

大きな足あと



みずかきのある足あと

3. 実施の手順

導入(5分)

- ・一見すると何もいないようだが、干潟には多くの生きものがすんでいて、巣穴や歩いた跡等が干潟の表面に残っているので探してみよう、と参加者に投げかける。
- ・たいけんカードのイラストを使って巣穴等、痕跡の例を説明する。

展開(15分)

- ・しゃがむなどして視線を低くし、干潟の表面を注意深く観察して巣穴や痕跡を探そう、と伝える。場合によっては、スケッチやカメラ等で記録してもらおう。
- ・危険生物や危険箇所等、注意事項を伝える。
- ・集合時間と集合場所を伝え、観察を開始する。

まとめ(10分)

- ・所定の場所に集合したら、どこでどのような痕跡を見つけたのか、カードに載っていない痕跡にはどのようなものがあつたか、全体で共有する。
- ・まとめを行うときに、足下で確認できる主な痕跡は、その場で全員で確認する。

4. 指導のポイント

・なるべく低い視線で、じっくり探す

痕跡を探すには、しゃがんで視線を低くする。また、巣穴等を見つけたら、しゃがんでじっと観察を続けると、姿を隠した生きものが巣穴から出てきて、痕跡を残した生きものが何だったのかわかる場合がある。

・“なぞ”を楽しむ

正体のわからない生きものの痕跡を発見したり、正体を調べたりすることは干潟の生きものに興味を持つきっかけとなる。正体不明を“なぞ”として、痕跡の特徴を出来る限りくわしく観察・記録してもらおうと、発見を楽しむことができるし、後で調べる手がかりにもなる。

